

# みんなの千歳歳の財政航路

健康なまちの未来が見えてきた



ざいせい まちる 財政 守 くん  
さくらちゃん

## これまでの財政航路

まず、市が平成14年度から行ってきた、財政健全化対策について、各年度の取組と、その成果を、私たちのまち「千歳丸」の航路の順番にご紹介します。(各年度の対策は、次年度に向けたもので、成果の数値は予算づくりの結果です)

**平成14年度 財政健全化対策**  
【平成15年度予算に向けて】

目標 **6億円**

**千歳丸**

- 市の各部署の予算を、一律、前年度から5%カット
- 市の仕事を民間にお願いしている「委託料」を、一律、前年度から10%カット
- 市の貯金(基金)の取り崩しなど

つかうお金を7億3千万円節約

しかし…

**成果**  
入るお金が4億8千万円減少

市税収入の落ち込み  
国からの仕送り(地方交付税)がカット

**平成15年度 財政健全化対策**  
【平成16年度予算に向けて】

目標 **7億円**

**千歳丸**

- 市の未利用地の売り払いを強化
- 市職員の人件費の抑制
- 公共事業の全般的な見直し
- 市の各部署の予算を、一律、前年度から10%カット
- マルチメディア情報センター、福祉の店などの閉鎖
- 市の貯金(基金)の取り崩しなど

つかうお金を11億1千万円節約

入るお金が4億7千万円減少

**成果**  
6億4千万円



利用者の少ない施設も閉鎖しました

**平成16年度 財政健全化対策**  
【平成17年度予算に向けて】

目標 **7億円**

**千歳丸**

- 会社などの事業系廃棄物処理手数料の見直し
- 職員の駐車場やパークゴルフ場の有料化
- 市職員の人件費の抑制
- 東京事務所・支笏湖青少年研修センターの閉鎖
- はり・きゅう助成、融雪施設設置費助成の終了
- バス・浴場利用助成、敬老年金支給の見直し
- 各種イベント補助の見直しなど

全137事業を総見直し

**成果**  
8億1千万円

国の改革による仕送り(地方交付税)の大幅なカット

**成果**  
6億4千万円

健全化対策を根本から見直し!

**平成17年度 財政健全化対策**  
【平成18年度予算に向けて】

目標 **6億円**

**千歳丸**

- ごみの排出を抑え、資源として循環させる「循環型社会」に向けた家庭ごみの有料化による効果
- 使う方・使わない方の税負担の公平性を考えた公共施設使用料の見直し
- 市職員の人件費の抑制
- 民間のノウハウを公共施設に取り入れる「指定管理者制度」の導入による効果

つかうお金を5億3千万円節約

入るお金が2億円増加

**成果見込**  
7億3千万円

度重なる大幅な地方交付税の削減を考えて、今後の財政状況を見直した結果、平成21年度までに累計116億円の累計赤字が見込まれました。このままでは、平成18年度に「千歳丸」は「転ぶく」する羽目に…。そこで、財政健全化対策そのものを見直し、新たに平成17年度を「財政健全化元年」と位置づけました。



「あくんもがっばったの!」

景気が悪く会社などから支払われる「税金の収入」が減り、高齢者のための「社会保障」が拡大、そして国からの仕送り「地方交付税」がカットされるなど、全国の地方自治体は財政悪化という「荒波」にさらされています。

市は、このことに対し、平成14年度から「財政健全化対策」という帆を掲げ、市民の皆さんと一緒に、さまざまな荒波を乗り越えてきました。

「船が「転ぶく」してしまっわけにはいきません。しかし、「海がシケたから」といつても、行政という、すでにこぎ出した地方自治体は財政悪化という「荒波」にさらされています。

そして、平成18年度、まちの航路に、おだやかな「きざし」が見え始めました。今月の特集では、これまで、まちの財政がどんな「航海」をしてきたか、そして今後の「航路」を見つめたいと思います。

**バブル**経済が崩壊したといわれる平成2年度以降も、人口や住宅戸数の増加、企業の進出などのおかげで、市の財政の源である市税の収入は、順調に増加してきました。

これが平成14年度から一転し、平成15年度には、10年前と同じ税収へ激減。このままでは、平成19年度までに、累計120億円の赤字になるという危機感が生まれたのです。

市はこのことを踏まえて、平成14年度から財政健全化対策を掲げ、市の貯金にあたる「基金」を崩しながら、経費の削減に努めてきました。

しかし、税収の減をおぎなうはずの国からの仕送り(地方交付税)なども、

国の改革(三位一体の改革)により、大幅にカット。あらためて平成16年度に、以後5年間の動向を見通しました。

その結果、累計116億円の赤字が予想されるばかりか、平成18年度には、夕張市に代表されるような財政再建準備団体になることが予想されました。

つまり対策を何もしていないと、今年度に、まちが「倒産」することが見込まれていたのです。

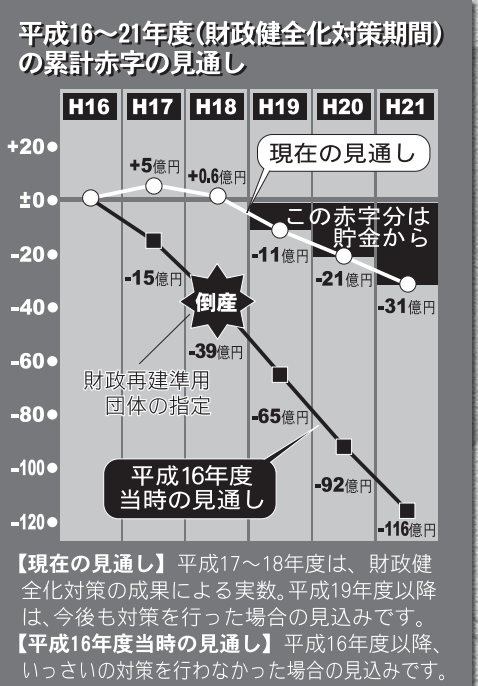
## まちの倒産を回避

そこで市は、平成16年度に市の全事業の洗い直しを行いました。もちろん市の事業は、市民のくらしに直接関わるものです。見直しの方針については、市長が先頭に立ち、「市民懇談会」などのさまざまな機会を通じて、市民の皆さんに理解を求めてきました。

そして全333事業から137事業を洗い出し、これらを見直した結果、目標を上回る8億1千万円の節約を達成しました。つまり、この姿を5年間継続することで40億円、そのほかの要因も含めて、116億円の赤字を、7億円で縮めることに成功したのです。

さらに、平成17年度は、7億3千万円の成果が得られ、今年度の見直しでは、平成21年度までに累計赤字を31億円にまで抑えることが見込めました。

市民の皆さんのご理解とご協力、いまの段階でまちが倒産することは、回避できたといえるでしょう。



# 財政に聞く！

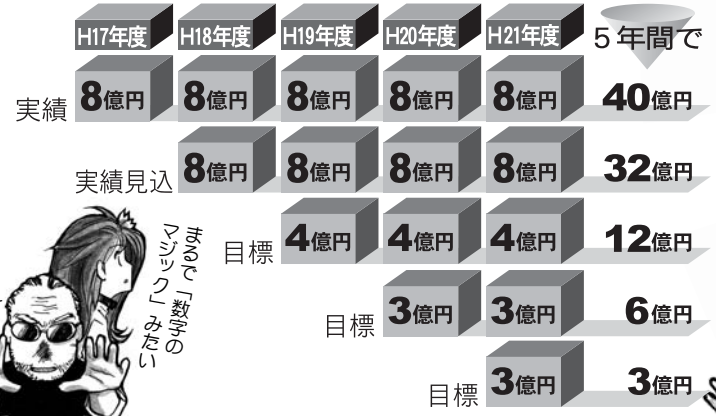
## 健全化を進める理由

できるだけ安全な航路を進んでいくために、今後も引き続き財政健全化の帆を掲げていきます。平成19年度は4億円、20、21年度は3億円を積み上げるなどの対策により、財源不足の31億円の解消に努めます。

でも、せつやくばかりしてたら、なにもできないんじゃないですか？

「千歳丸」は、これからどんなふうにするんでいくの？

「キテます」  
「意味で...」  
「お金の...」  
「お金の...」



今年度の見込みにおける、平成21年度までの成果 **93億円**

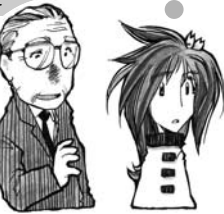
そんなことはありません。もともと「財政」とは、限られた市のお金を、「どうつかえばみんなの幸せにつながるか」を考えて配分することですから、必要なことにはもちろんつかっています。将来のことを考えて、新しいことにもついています。財政健全化期間中のこれまでも、市の大きな計画にもとづいて、つぎのような取組を実際に行ってきました。

### 新長期総合計画「21☆千歳きらめきプラン」の5つの目標にそって財政状況が苦しいなかでも、将来を見据えた新しい取組を進めてきました。

参加と連携による都市づくり	魅力と活力あふれる都市づくり	学びあい心ふれあう都市づくり	安全で人と地球にやさしい都市づくり	心がよい幸せ感じる都市づくり
行政改革・行政評価の推進	JR千歳駅周辺整備事業	小中学校の増設や改修整備	ダイオキシン対策の推進	大和地区の老人ホームやケアハウスの建設
千歳駅市民サービスセンターの開設	電線類地中化事業	国際交流などのグローバルスクール活動への助成	市営住宅の建て替え	子育て総合支援センターの計画着手
都市経営会議の設置	道道泉沢新千歳空港線の開通	学校プールの改修	高齢者向け優良賃貸住宅制度の導入	「つどいの広場」開設
千歳市の教育を考える市民会議の設置	アウトレットモール「レラ」内に情報発信ブースを開設	市民文化センターのリニューアル	自主防災組織の支援	「子育て支援ガイドブック」の作製
指定管理者制度の導入	道の駅のオープン	市民活動交流センター「ミナクール」の開設	AED(自動体外式除細動器)の導入	北陽小学童クラブの開設
市民協働推進条例づくり	新千歳空港国際線旅客ターミナルの新設を決定		公園緑地の整備	いずみさわ児童館の開設
				児童館の日曜閉館
				社会福祉協議会の施設機能を充実
				障害者支援センターの開設

ちなみに、いまの市長が3年前の選挙の時に皆さんにした約束(公約)は、全110項目のうち8割を超える項目がすでに進行中です。この中には「まちを倒産させない」という約束もあって、ここまでできたんですよ。

せつやくしても、子育てのお手伝いなんかは、すすめているんですね。



来年はどうなりますかー？

平成19年度予算に向けた

## 平成18年度 財政健全化対策

できるだけ市民の皆さんに負担をかけずに

千歳丸 目標 **4億823万5千円**の成果!

### 平成18年度対策の内容

#### 【歳入確保に向けた取組】

- 市税収入の確保
- 未利用市有地の有効利用
- 広告料収入の確保など

#### 【歳出削減に向けた取組】

4億823万5千円

- 人件費の抑制 9,823万5千円
- 内部管理費の抑制など 2億5,000万円
- 市民、民間企業などの連携協力
- 公共施設などの見直し
- 道路、学校の建設や修復などの経費の抑制
- 平成20年度の予算にむけた見直し 6,000万円
- 指定管理者制度導入などによる抑制
- そのほかの取組

来年度は、一般財源に約12億円の財源不足が予想されますが、8億円を貯金からまかない、4ページの上の図のように、4億円の成果を生み出すことで、この問題を解決しようとしています。

4億円を生み出す対策は左の表のとおりです。市の職員の人件費を抑えたり、市役所内部での節約を徹底したりします。また、民間の力をかりて、公共施設の管理・運営費の節約をする「指定管理者制度」についても、今年度に引き続き行います。

節約以外には、税金などを払ってくれない方に対する対応を強めたり、市の土地の売り払いも積極的に努めます。新しい試みとしては、市の建物などに、会社の「コマーシャル」をのせるといった「広告料収入」にも取り組めます。

財政健全化対策は、お金だけの問題ではありません。みんなの財産を、どうやったら上手につかえるかを考えることでもあります。

今後、財政情報を進んでお知らせし、市民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



## 真に健康なまちを目指して...

国からの仕送りを頼らないまち。すなわち東京都のような地方交付税の「不交付団体」にならない限り、「健康になった」と、はっきりいうことができないのが現時点の状況です。

とりあえずは、高波を乗り越えた「まちの財政航路」。それでも海のシケが完全に治まるのはまだ先のことです。

「行政サービスの低下」を抑えるために、これからは、市民の皆さんとともに考え、協力しあいながら、真に健康なまちを目指して、一緒に舵を取っていききたいと思います。



## 財政を読み解くためのキーワード

### 三位一体の改革

【さんみいつたいのかいかく】

平成14年に方針が決められた、国の構造改革。「地方でできるものは地方にゆだねる(地方分権)」を原則としたもので、地方交付税などを大幅に削減するとともに、国から地方へと税源を移すというもの。

### 財政再建準用団体

【ざいせいさいけんじゅんようだんたい】

民間の「倒産」にあたる状態。財政運営が国の厳しい管理下におかれ、市民への行政サービスが極端に低くなる。例えば、道路や学校などの公共施設が壊れても修復できないといった状態になる。(千歳市は赤字が38億円を超える場合)

### 一般財源

【いっばんざいげん】

法律上、つかい道が特定されず、どのような経費にもあてることができる財源。市税、地方交付税が大半を占める。逆に武道館の使用料などは、施設の運営につかわれる「特定財源」と呼ばれるが、これのみでまかなえない部分を一般財源がおぎなっている。

### 不交付団体

【ふこうぶだんたい】

市税収入などが多く、国から地方交付税を得ていない団体。道内では泊村のみ。財政力指数が1以上の団体がこれにあたる。(千歳市は0.763※全国で千歳市と同じ規模「人口8~13万人・第3次産業65%以上」の団体の平均は0.71)

より詳しいパンフレットを用意しました。



財政課で配布しますので、ぜひ、一度ご覧ください。

●財政 守くんの正体は  
総務部 財政課 財政係です  
☎(24)0541

ホームページもご覧ください  
<http://www.city.chitose.hokkaido.jp/zaisei/index.htm>